

793号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2
日港福会館 5 階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール rouren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



全国 検数労連

生活とくらしを守るための25春闘・反戦平和 検数労連全国学習交流集会 戦後80年を迎えるなか、17年ぶりに広島で開催



戦後80年を迎えようとしているなか、『広島』の原爆について改めて知ろう『生活とくらしを守るための25春闘・反戦平和』をテーマに、2月27日・28日の2日間、検数労連として17年ぶりに広島で学習交流会を開催しました。

1日目最初の講義では、広島県原水協代表理事である高橋信雄さんを迎え『日本被団協ノーベル平和賞受賞と被爆80年』というテーマでの講義を受けました。

高橋さんからは、広島に原爆が投下される要因の一つに、当時の広島宇品港は軍事の拠点（兵站基地）であったことが話されました。

また、広島に投下された原子爆弾の破壊力やその後の被爆地と被爆者の悲惨な状況などについて詳しく語られ、あらためて核兵器の恐ろしさと港湾を兵站基地にさせること、すなわち私たち港湾労働者が戦争の協力者になるのと同時に、真っ先に攻撃対象となりうるのだと痛感しました。

現在、全国港湾を中心に『港湾を兵站基地にさせない』『港湾労働者は戦争の協力者にも被害者にもならない』との方針のもと、反戦平和活動に力を入れています。

平和でこそ港湾運送・港湾労働があるとの信念のもと検数労連としてこれからも平和に関する学習会は継続していくべきと考えています。

第二の講義では全国港湾玉田書記長を迎え、『25港湾春闘をめぐる情勢と反戦平和』というテーマで講義を受けました。

冒頭に『なぜ労働組合の方針は情勢から入るのか』とのテーマで、私たちの職場環境や生活実態などを根本的に改善させるには情勢に対する認識と、それを改善させるための取り組みの方向性を見極めることが重要であると話されました。昨今の日本では社会保障削減して軍事費に予算を大きくつぎ込んでいくことや『特定利用港湾』による

空港・港湾の兵站基地化など、まさに『戦争は平和のうちに準備される』『新たな戦争前夜』といったタレントのタモリさんの言葉を引用しつつ、全国港湾での反戦・平和・港湾を兵站基地にさせない取組みや、2024年10月に開催したITF（国際運輸労連）世界大会のなかで提起された『労働運動は平和の追求において一定の役割を果たすべき』『暴力によらない紛争解決』『対話を通じてこそ初めて平和を求める勢力が前進すると確信する』など、世界的にも平和を希求する運動が高まりを見せていると話され、参加者は皆関心を深めていました。

2日目は、場所を平和祈念館東館地下1階研修室に場所を移し『被爆者から受け継いだ体験や平和への思い』というテーマで被爆者から体験を伝承した峯岡紀子さんを招



き、講義を受けました。

峯岡さんは被爆体験伝承者として、実際に被爆された方々から直接お話を聞いていることから、広島に原爆が落とされた当時の状況や、その後、放射線による後遺症の苦しみや影響などについて克明に話され、峯岡さんの話を聞いた後に見学した『広島平和記念資料館』では、展示物や説明文と峯岡さんの話がリンクして原爆の恐ろしさや理解、反戦平和への思いが一層深まりました。



【参加者の声】

学習交流会の参加者からは次のような声が寄せられたので、一部紹介します。

①なぜ労働組合が平和運動に取り組むのかを改めて考えさせられた。

②港湾と政治、戦争・平和の係りを再認識し、求められる運動を一人ひとりが考え、産別運動へと繋げて行くこと

が重要と感じた。

③『被爆体験伝承講話』が一番印象的なものであった。この『被爆体験伝承』を全国に展開し、子供に講話を聞かせたいと思った。

④『被爆体験伝承講話』では、広島に原爆が落とされた日に、そこで何が何が起こったのか。今まで知らなかったことをより詳しく知ることができた。その後の資料館での遺品や映像を目の当たりにし、心が苦しくなった。この経験を日々の生活に活かしたい。

⑤いままで戦争の体験談などを聞く機会が無かったので、今回の学習会では貴重な経験となった。広島平和記念資料館で写真を見ながら講師の皆さんが話されたことを思い出しながら見た。

⑥『自衛隊法103条』について初めて知った。戦争が起きた時、自衛隊の命令で我々が戦争に駆り出される現状は変えていきたいと思った。

